

農産物の環境負荷低減の見える化の取組について

令和8年3月

農林水産省

みどりの食料システム戦略グループ

地球環境対策室

農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」

- **みどりの食料システム戦略**に基づき、消費者の選択に資する環境負荷低減の取組の「見える化」を進めます。
- 化学肥料・化学農薬や化石燃料の使用量、バイオ炭の施用量、水田の水管理などの栽培情報を用い、**定量的に温室効果ガスの排出と吸収を算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすく表示**します。
- 米については、**生物多様性保全**の取組の得点に応じて評価し、温室効果ガスの削減貢献と合わせて等級表示できます。詳しくは 農林水産省HPへ
- 農産物等にラベル表示するための基本的な考え方と、算定・表示の手順を整理したガイドラインを策定し、令和6年3月「見える化」の本格運用を開始しました。
- 生産者・事業者に対する算定支援や販売資材の提供を引き続き実施するとともに、「見える化」した農産物が優先的に選択されるよう、**各種調達基準への位置づけ**や消費者の購買意欲を高めるための**民間ポイントとの連携**を検討します。

詳しくは 農林水産省HPへ



温室効果ガス削減への貢献

栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量 (品目別)}}{\text{地域の標準的栽培方法での排出量 (品目別)}} \times 100 = \text{削減貢献率 (\%)}$$

排出 (農薬、肥料、燃料等)
- 吸収 (バイオ炭等)

★ : 削減貢献率 5%以上
★★ : " 10%以上
★★★ : " 20%以上



見る × 選べる
みえるらべる

生物多様性保全への配慮

※米に限る

<取組一覧>

化学農薬・化学肥料の不使用	2点
化学農薬・化学肥料の低減 (5割以上10割未満)	1点
冬期湛水	1点
中干し延期または中止	1点
江の設置等	1点
魚類の保護	1点
畦畔管理	1点

★★ : " 2点
★★★ : " 3点以上

英語版ラベルの作成

インバウンドや輸出への対応向けに英語版ラベルを作成。
(愛称: ChoiSTAR(チョイスター))

Your Choice boosts
Sustainable Agriculture
—あなたの選択が持続可能な農業を後押しします—

ChoiSTAR



令和6年3月からの本格運用以降、

- 登録番号付与**1,880**件
- 販売店舗等**1,392**か所
(令和8年1月末時点)

対象品目: 24品目

米、トマト(露地・施設)、キュウリ(露地・施設)、なす(露地・施設)、ほうれん草、白ねぎ、玉ねぎ、白菜、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、ミニトマト(施設)、いちご(施設)、ピーマン(露地・施設)、リンゴ、温州みかん(露地・施設)、ぶどう(露地・施設)、日本なし、もも、ばれいしょ、かんしょ、茶

※括弧書きがないものは全て露地のみ

みえるらべるの広がり

○ 全国各地の小売店等において、みえるらべるを表示した農産物等の販売が広がっている。

マックスバリュ（北海道、岩手、愛知、沖縄）：スーパー

・北海道の店舗で玉ねぎ、岩手県の店舗でミニトマト、かんしょ、愛知県の店舗でなす、沖縄県の店舗できゅうりを販売。



ドン・キホーテ（沖縄）：ディスカウントストア

・化学農薬・化学肥料不使用で栽培されたきゅうりを販売。



コープおきなわ（沖縄）：スーパー

・意欲ある地域の農業者が全国で初めてピーマンの「見える化」に取り組む。
・環境に配慮して栽培されたピーマン、にんじん、きゅうり、なす、ばれいしよを販売。



道の駅恐竜渓谷かつやま（福井）：道の駅

・化学農薬・化学肥料不使用や生物多様性保全に配慮して栽培された米を販売。



グリーンコープ生協（九州、広島、山口）：宅配

・化学肥料不使用で栽培された白ねぎを販売。

神明（全国）：米穀卸売

・化学農薬・化学肥料の使用低減や生物多様性保全に取り組む、JAみやぎ登米、JAたじまの米を全国のイオン等で販売。



道北アークス（北海道）：スーパー

・環境に配慮して栽培した白ねぎ、玉ねぎで「見える化」に取り組み、販売。



イオン北海道（北海道）：スーパー

・北海道内のイオン全店舗において、化学農薬・化学肥料を減らし、緑肥を投入して栽培された玉ねぎを販売。



イオン東北（岩手）：スーパー

・化学農薬の使用を最小限に栽培されたミニトマト、かんしょを販売。



秋田県立増田高等学校（秋田）：学校

・生徒が環境に配慮して育てた米でGHG削減貢献・生物多様性保全の両方で星3つを取得。
・校内や地域イベントのほか、令和6年11月に東京・大丸の催事において生徒自らが対面販売。



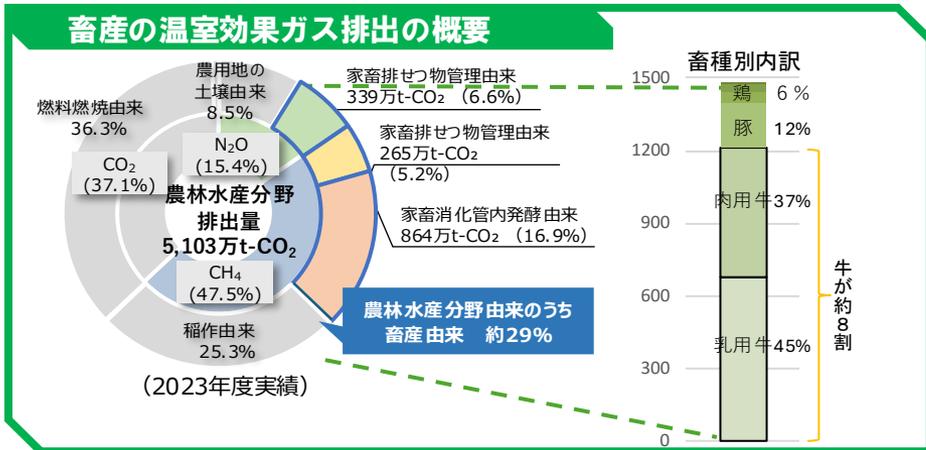
さとふる（Webサイト）：ふるさと納税

・令和6年12月より、米・野菜等の「見える化」農産物の返礼品を紹介する特集ページを公開。
・特集ページには、みえるらべるや「見える化」の取組の説明を掲載。



あなたも温室効果ガスの「見える化」に取り組んでみませんか？

地球温暖化への対応が世界的な課題となり、国民の関心も高まっています。我が国の農林水産分野における温室効果ガス（GHG）の総排出量の約3割を占める畜産分野においても排出量の低減を意識していきませんか？



環境負荷低減の取組の「見える化」

生産に関するGHGの排出と吸収を定量的に算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすくラベル表示することを検討中です。

農産物で先行して運用中ですが、畜産物でも、牛分野での運用開始を目指しており、環境負荷低減の取組の「見える化」を推進していきます。



農産物では店頭のポップに「みえるらべる」を提示して販売されるなど活用が進んでいます。

算定実証・販売実証ご希望の方

問合せ先：
 農林水産省 みどりの食料システム戦略グループ
 畜産局総務課 畜産総合推進室

メールアドレス：
micruka_chikusan@maff.go.jp

どんな取組が低減に寄与するの？

国産飼料・自給飼料の使用

- ▶ 飼料の輸送距離削減で、二酸化炭素などの間接排出量を低減。

GHG低減に資する排せつ物処理方法の活用

- ▶ 家畜排せつ物を強制発酵させることなどによりメタン、一酸化二窒素の排出を低減。



GHG低減に資する飼料添加物の給与

- ▶ アミノ酸バランス改善飼料の給与で家畜排せつ物由来メタンの低減。GHG削減効果の認められた飼料添加物の給与で消化管由来メタンの低減。



電気や燃料の効率的な使用

- ▶ 省エネルギーにより二酸化炭素などの間接排出量を低減。

生産性の向上に資する取組

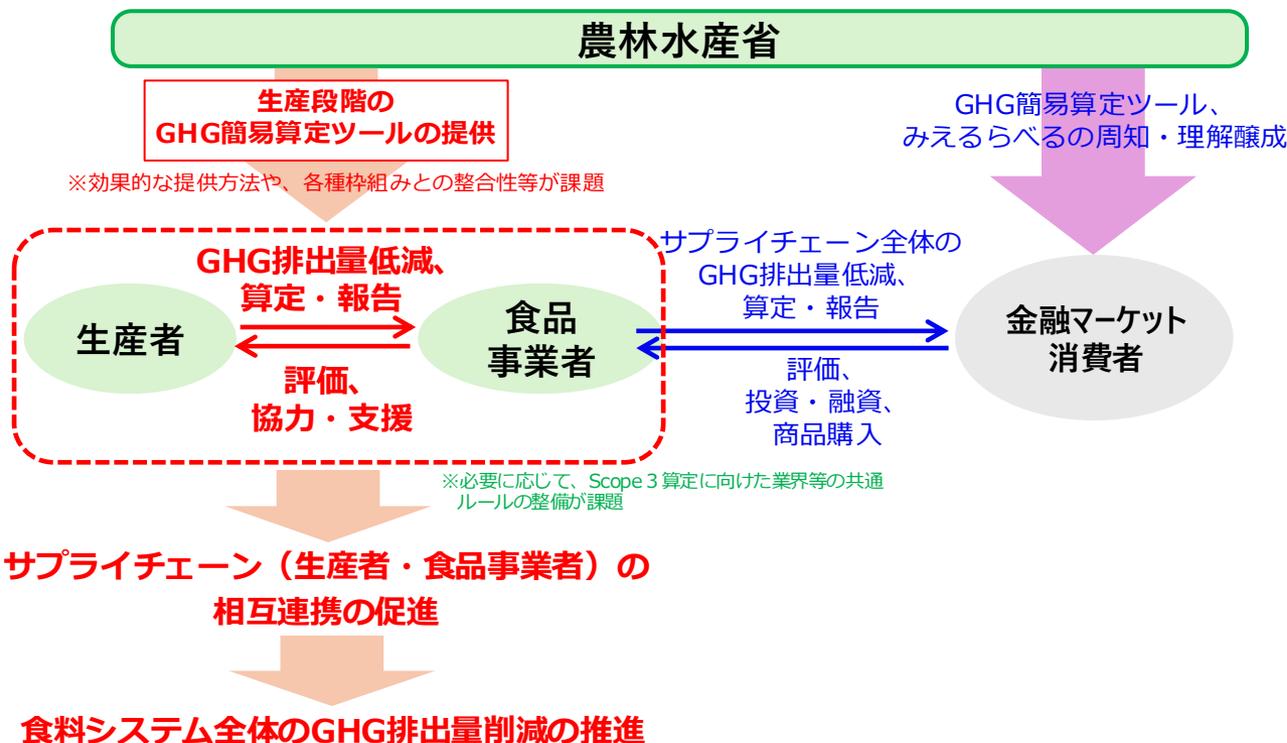
- ▶ バイパスアミノ酸の給与、短期肥育や肉量・乳量向上等により、生乳や枝肉生産量当たりの二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の排出量を低減。

算定方法に反映

食品事業者・生産者による「簡易算定ツール」のScope 3 算定への活用推進

- 農林水産省の環境負荷低減の取組の「見える化」に用いる簡易算定ツールは、「みえるらべる」の表示だけでなく、算定した生産段階の温室効果ガス排出量（1次データ）を、食品関連事業者のScope 3 カテゴリ 1 のデータに活用可能。
- 特に、食肉加工業界では、環境省所管の予算事業において、農林水産省の簡易算定ツールの活用を前提としたScope 3 算定に係るガイドラインの整備が検討されている。
- 農林水産省としては、生産段階の簡易算定ツールの食品業界における活用を促すことで、サプライチェーン（生産者・食品事業者）の連携を促進し、食料システム全体のGHG排出量の削減の取組を推進していく。

【農林水産省のGHG簡易算定ツール活用の目指す姿】



【ガイドライン整備の取組（食肉業界）】

バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業
令和7年度実施モデル事業

業界団体支援

畜産



参加団体

- 代表：全国農業協同組合連合会
- 構成メンバー：日本ハム株式会社、プリマハム株式会社、スターゼン株式会社、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社

業種

畜産物の生産・加工
および流通

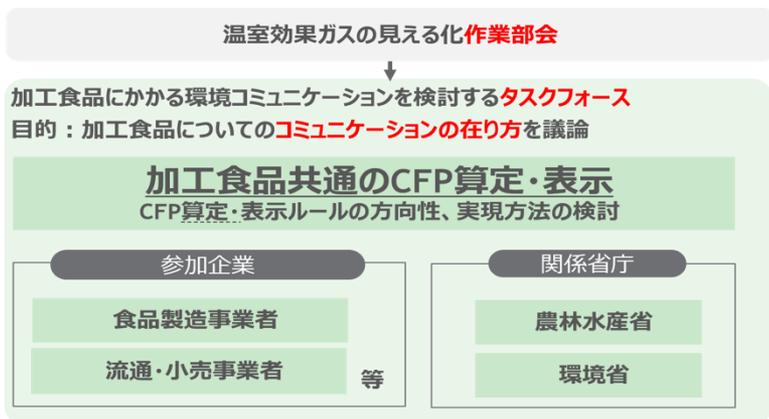
取組内容
(予定)

畜産業界のバリューチェーン全体の脱炭素化に向け、カテゴリ1・5の1次データ化を前提としたScope3算定ルールのガイドライン策定に取り組む。

フードサプライチェーンにおける脱炭素化の「見える化」の推進

- ▶ フードサプライチェーン全体での脱炭素化の実践とその「見える化」を進めるため、食品産業における取組について官民で議論。
- ▶ 農林水産省では、令和5年度及び令和6年度において、妥当性及び取り組みやすさの観点から実証を実施。それらを踏まえ、加工食品共通CFP算定ガイドをとりまとめ（令和7年3月）。
- ▶ 今後、食品産業への周知を推進するとともに、算定ガイドを活用した、食品企業による自主的なCFP算定の取組等を支援。

・官民での協議体

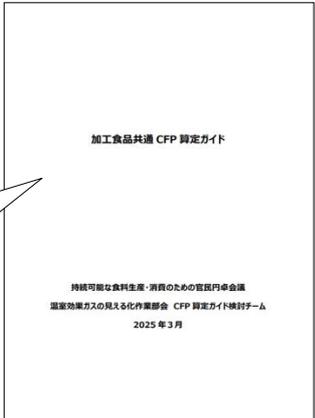


・加工食品共通CFP算定ガイド

食品関連事業者を中心に、CFP算定を行う際に参照できる定義や考え方を業界の自主算定ルールとしてまとめたもの

ポイント

- ・算定対象・算定単位
- ・算定範囲(ライフサイクルステージ・対象プロセス)
- ・カットオフの考え方
- ・1次データ、2次データの取扱い
- ・データの入手が困難なプロセスの算定の考え方等を規定



・CFP算定実証

令和5年度に策定された「加工食品CFP共通算定ガイド（案）」を基に、令和6年度はさらに幅広い食品関連事業者が取り組みやすいものになるよう、算定ガイドを用いた算定実証を実施（令和6年12月～令和7年3月）

官民の協議体で提案された加工食品共通の算定ルールのあり方

- ・小規模な事業者にも分かりやすく、取り組みやすいルールとすること
- ・なるべく低コストかつシンプルなアプローチであること
- ・カーボンフットプリントガイドラインなど、国内/国際的なルールに整合していること

参加企業 (五十音順)	イオン株式会社	カゴメ株式会社	株式会社 日清製粉ウェルナ	ハナマルキ株式会社	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
商品名	トップバリュベストブライスかに風味かまぼこフレーク	カゴメトマトジュース 食塩無添加 720mlPET	日清製粉 vienna 日清アラフーホチャック付 1kg	ハナマルキ ころもみそ 750g	キレートレモン Wレモン 500mlPET
製品名称	魚売り製品	トマトジュース (濃縮トマト還元)	小麦粉	米みそ	15%レモン果汁入り飲料 (炭酸ガス入り)
製品イメージ					

詳しくはこちらをご参照ください。



※ CFPとは・・・製品やサービスの原材料調達から廃棄、リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出されるGHGの排出量をCO2排出量に換算したもの